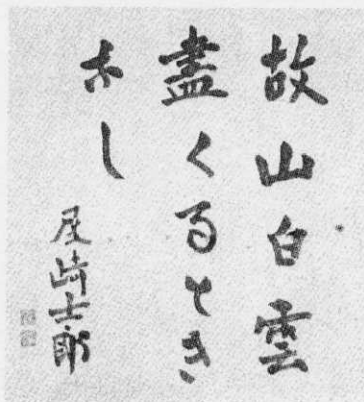


月報

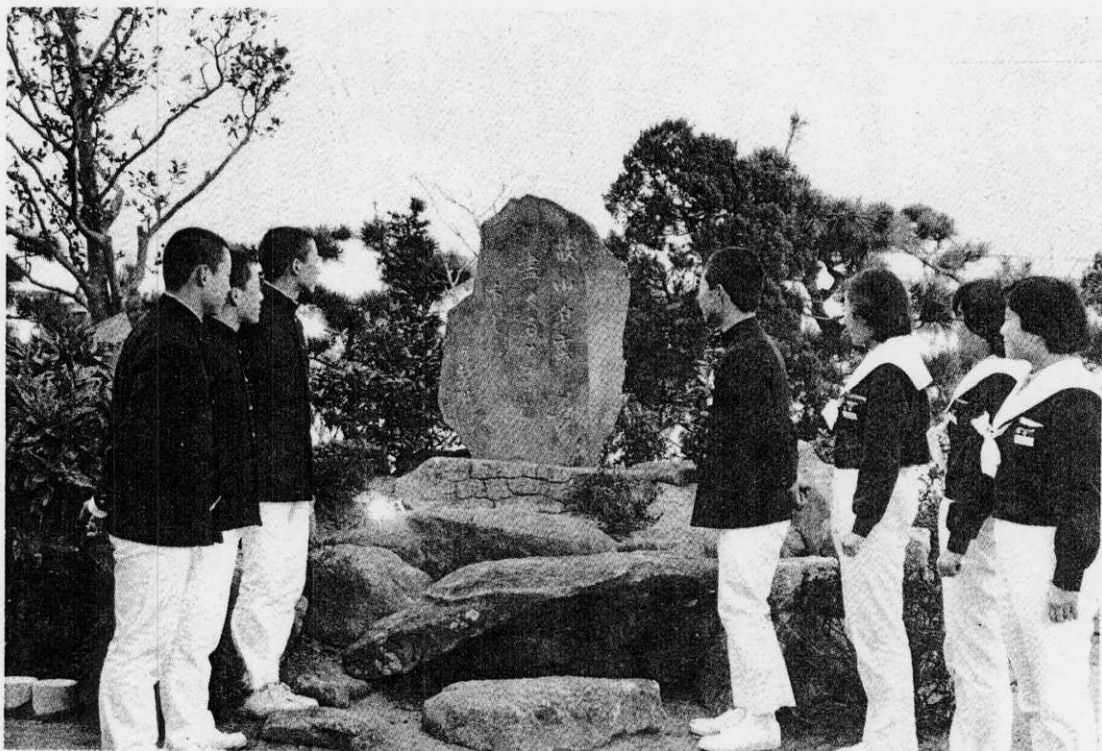
岡崎の教育

3月号



尾崎士郎愛語

昭和51年3月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(尾崎士郎文学碑の前で — 美川中)

宗教的情操

藤井 實 應

寺の住職をしていると、殆ど誰でも経験することであるが、先祖のことを調べたいから、過去帳を見せてくれとか、先祖にこういう人があり、お寺に葬ったこともあるが、法名や墓の有無を調べたいなど、先祖のことを明らかにしたいとて寺を訪ねて来る人が相当ある。その人たちの年齢は、定年退職以後くらいの人が多い。相当の年齢になると、一そう祖先のことが思われてくるらしい。

大樹寺に住職して数年になるが、寺は松平、徳川將軍家の菩提寺である関係から、松平氏の子孫の方、或は家康の家臣の子孫の方など、祖先のことを調べたいとて、数名の方が来訪されたが、それが見らかとなって喜ばれた。

そこで寺の住職になると、先ず寺の歴史を調べねばならぬことになる。先祖を離れては、わが生命もないのであるから、先祖を明らかにしたいというのは、誰しもの願ひではなからうか。また先祖を崇敬するのは、日本民族の著しい伝統的精神といえるであろうか。近頃郷土史の研

究、文化財の尊重が高められ、目ざめてきたことは、喜ばしいことである。横の関係、社会的関係を重視すると共に、縦の関係、歴史的關係を疎かにしてはならない。手近なところでは、夫婦関係を重視するとともに、親子関係を疎かにしてはならぬということになる。

大樹寺は、松平四代親忠の開基、家康は松平九代である。彼の十九歳、永禄三年五月(一五六〇)今川義元の命をうけ大高城に赴いていたが、桶狭間の合戦で義元は戦死、身の危険を避けて大樹寺へ逃げこんで来た彼は、祖先の墓前で自害し果てようとしてまで悲観したが、寺の十三代登善上人の戒めに感激、全く生まれかわった心となり、出なおしをしたのである。生涯の旗印となつた「厭離穢土、欣求浄土」(念仏の心)も、この寺ではじめて掲げられ、その念仏の精神が生涯活動の依り処となつた。(松平崇祖開運録)

思うに彼は、この時に宗教的な回心を経験したのである。宗教的回心は、生涯の奮闘的生活の原動力となるものであり、

これによりて勇気づけられ、高められ、浄められてゆくものである。十八、九歳という年齢は、宗教の開眼の大切な時機であるといわれている。(家康の回心については、その遠因として、さかのぼつて、その幼年時代の宗教的環境、教養等を併せ考察せねばならぬが。)

このようなことから、私は宗教教育の大切なことが念願にかかつている。

「宗教に関する寛容の態度及び宗教の社会的地位は、教育上これを尊重しなければならぬ」(教育基本法第九条)のであるが、現在、家庭の中で宗教情操教育が如何ほど行われているのであろうか、また学校に於ては如何であらうか。宗教的情操の教育は、説明で伝えられるものでなく、その人の生きた宗教的情操に、直接触れることによつて、伝わりゆくものと思ふ。それにつけても、住職として、宗教に携わるものとして内省し、漸愧を覚ゆると共に、小さくとも、全力をつくして己が職分を盡したいと願っている。

(大樹寺住職)



いまはむかし



進路指導

●東奔西走

昭和22年、六三制と公共職業安定所が発足した。組の半数以上が就職者。担任教師は、各事業所との直接交渉による完全就職を目ざし、「異国の丘」や「憧れのハワイ航路」の歌が流れ、デフレの風が冷く吹く町を駆けずり回った。戦後しばらくは、事業所の開拓に教師の力量が大いに問われたものであった。

昭和24年の男女平均月収は、二千円から三千五百円。男子採用の機械関係の大工場は、実に狭い門であった。各校のトップレベルの生徒が、成績、性行、家庭環境など調査され、しるぎを削り合つた。一方、糸姫だけは引張りだこであった。しかし、女工衰史などの悲話に影響してか、本人希望、家人反対という場合がしばしばあった。また、五名のウエイトレスを募集したある喫茶店に、四十名の生徒が殺到、とり組んだ試験問題が、MSAと明治天皇の御製(短歌)の二問。縁故の絆が強い時代ともいえた。

生徒の就職が一段落した二月、「教員の定員過剰三十七名」「新卒教員よ、どこへ行く」の新聞記事に、わが首はと、

ふるさとの自然

三河珪石との出会い

今から三十年ほど前、私は毎朝美合駅から電車に乗って岡崎中学（現岡崎高校）に通っていた。その頃、美合駅の貨物用プラットホームには二十〜三十センチ角の白っぽい石が積まれていた。



片理が発達した珪質片麻岩（池金町）

この付近は花崗岩地帯で、サバ土が山肌にもみ出しているやせ地が多い。このサバ土をミルという機械の中に入れて水車の動力で粉砕して陶磁器の原料をつくる。白っぽい四角い石は、このミルの中に入れるために積んであったのである。

三河珪石といつて岡崎特産のものだといふことも初めて知った。

岡崎最古の岩石

岡崎で最も古い岩石は片麻岩で、領家変成岩類と呼ばれる。古生代末期（およそ三億年前）、本州は地向斜性の海（ほとんど沈降し、厚い地層を堆積させる浅い海）の底で、砂岩、硬い岩・チャートなどの厚い地層が堆積した。やがて中生代の初め（二億年ほど前）から始まった造山運動によってこの地層は持ち上げられ、

本州の背骨となったのである。領家変成岩は、この造山運動の際、地下約二十キロメートルで、二千〜三千気

圧の圧力と花崗岩のマグマによる五百〜七百度の温度とによりこれらの地層が変成作用を受けてできたものだと考えられ

ている。

珪石は俗称

岡崎付近に分布する領家変成岩は二つの岩型に分けることができる。灰色〜黒色の黒雲母片麻岩、白〜灰白色の珪質片麻岩である。しかし、この二つがうすく縞を作っている岩石も少なくない。市域の約三分の一はこの岩石で、乙川の河原の石の九割はこの岩石の礫である。珪質片麻岩はチャートや砂岩が変成した岩石で、珪酸分が多い岩石であるが、特に珪酸分の多い岩石を俗に珪石と呼んでいるのである。岡崎市における珪質片麻岩は、市の南東部において東北東から西南西にかけて珪質片麻岩と黒雲母片麻岩が交互に帯状をなして分布する。珪質片麻岩の層は七枚、そのうち最も厚い層は生平町から竜泉寺町にかけて延びる、最大幅一・八キロメートルのもので、珪石の採石場の多くはこの層にある。

珪石の用途は実に多い。合金鉄用珪石、珪石モルタル、珪石レンガ、鑄砂、セメント原料、陶土粉砕用の球石、特に珪酸分の多いものはガラスやレンズの原料にもなる。三河珪石は花崗岩とならんで市の重要な鉱産物である。

足もとに転がっている石ころが三億年の歴史を語る地球の年輪に見えてこないだろうか。

（六名小 磯谷栄一）

人事の読みに落ち着かぬ日々もあった。

青息吐息

父兄と教師が付添った安定所係員との膝詰相談には、特需景気、神武景気、なべ底不況、岩戸景気が敏感に反映していた。例えば、神武景気の昭和31年、紡績、機械関係の大工場から希望者全員受験出来るとの知らせに、教師は進路調整の厳しさから解放されたものの、内申書の増加と文面調整のむづかしさに一喜一憂であった。

バレエ、野球などのスポーツ選手の引き抜き合戦も展開された。安定所の目をかすめての、学校や本人への人海戦術。いつの間にか、進学希望者が採用通知書の中に収つていたこともあった。昭和31年、「進学と就職」をテーマに生産教育研究発表会が甲山中で開かれたのは、こんな風潮の中であつた。

金の卵

昭和32年頃、進学者数と就職者数が逆転。就職希望者が、年を追って減少した。学校は、企業間の「金の卵やい」の争奪戦に頭を痛め、次々と変更を申し出る就職ママの出現に振り回された。時には甘い口車に乗せられ、誤つて有名な会社と同名の会社に就職を斡旋。すぐの転職に心を痛めた苦い思いもあった。

高学歴社会の中で、義務教育のみで修業していく者の後ろ姿に、吹きだまりの影を感じるのは杞憂であろうか。

榊原二夫、川合博、加茂健三
（稲垣敏子先生のお話から）

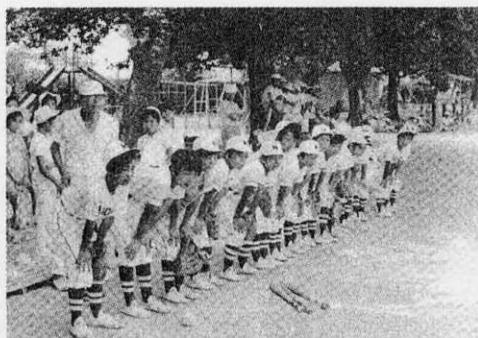
ソフトボールと十二年

黒柳律翁先生

「いくよう。」「オーライ。」地をほう白球、一瞬飛びついたと見る間に球はホームへ一直線。直径九センチの球につれてメンバーは動く。少しの乱れもない。日が西へ傾くころ、円陣を作ってミーティング。笑い声が聞こえる。黒柳先生は終始にここにこと合いづちをうつ。

こんな日が毎日続く。日曜や祭日もない。広幡小学校へ赴任以来十二年間、まさに、ソフトボールとともに明け暮れた日々であった。この間、昭和四十一年以降八回優勝という偉業をなしとげ、ソフトの広幡」と世評を高めたのは、ひとえに黒柳先生の情熱的な指導によるものであった。練習は厳しい。決して運動能力に秀れた者ばかりが集まるとは限らない。みづちり基本からきたえ上げていく。練習に特例は認められない。グラウンドの上では泣きごとや、弁解は無用だ。かぜで休む子どもがあっても、先生の姿を見ない日はない。ソフトの練習を始めてから、ねばり強くなった、健康になったという父兄の声も多い。ソフトクラブは、あこがれのクラブでもある。

チームワークを通して心の通い合いをもめざす。白球に結ばれた師弟同行の姿がここにある。(広幡小)



さあ いくぞ。

日記指導二十年

小幡まさ先生

「〇夫ちゃんお帰るなさい。日記見せてちょうだい。お母さんね、先生の書いてくださったの見るのとても楽しみよ。」こんな声がよく聞かれる。先生の赤ペンを楽しみにしているのは、子どもたちはもちろんだが、親も首を長くして待っているようだ。

「ねっこ」と名づけられた日記帳は、一年間で五、六冊に。多い子は十冊近くにもなる。学年末に表紙をつけて製本すると、子どもたちは、何物にもかえ難い

ら、玄関に手紙を置いてくる。うさぐさい人間の匂いをかぎつけて、犬が吠えててくる。

最後の家をまわる頃は、夜も白み朝焼けの煙が立ちのぼっている。入試に合格し、一段落したある日、こんな手紙をもらった。

——入試の当日、いちばん私を励ましてくれたのが「至急 ○○○○様」こうして届いた先生の温い心の便りでした。

受験場に入るまで、私は何度となく、その手紙を読み返しました。そして、お守り代わりに胸の中にとそっと入れ、テストに臨みました。おかげで、落ち着いて受験することができました。今は、毎日元気に高校生活を楽しんでます。

こんな手紙を読む時が、生徒と共に一年間苦勞した三年担任の喜びであった。

宝物として生涯大切に保存するということ。そして親にとっては、わが子の一年間の歩みとしてよき記念になると喜ぶ。

中をのぞくと、赤ペンがぎっしりと、時には何ページにわたってさえている。

「ほんとうのことを書かせろ。教師もほんとうのことを書く。」

これが先生の日記指導の基本。日記を通して、日記という場で子どもと話し合いをする。これが先生のねらい。

短い文しか書けない子には長い文で答えてやり、失敗した子には赤ペンでなくさめ励まし、誤った子にはやさしくさとしてやる。(愛宕小)



きょうもつづる

タイムカプセル

東海中 河村喜美

「先生、この常小ともお別れするんだから、何か残そまいや。」

という声が出て来た。一昨年の秋、折しも常小が仁王門の地へ移転するということで、子どもたちの心は、いやが上にも

師・弟・同・行

読み出したT君

六ッ美中小 高木明子

自分から本を読もうとしないT君。絵や写真の多い図鑑類しか見ない。なんとかして、一冊の本を読み通す喜びや、物語のおもしろさに気づかせたいと考えた。まず、はじめにやったことは、親子読書のようすを、録音させることだった。



親子読書のひとこま

天然色の作文

藤川小 三貝 皇

教師生活二十三年、何よりもうれしいことは教え子からの便り。手紙には必ずといってよいほどイラスト（さし絵）がつけてあり、すごく楽しい。どうしたところか、わが教え子達は、よくまめに便りしてくれるし、絵が好きというのか、楽しんで描いているようだ。

最初のテープからは、眠い目で読んでいるようすや、おかあさんが、字を教えているようすがよくわかった。テープは必ず聞き、ことばをかけ、励ますようにした。時には、給食時にクラス全員で聞き、みんなで励ました。

忘れ物の多かったT君が、ふしぎと忘れずに続いた。こんどはテープがわりに、おかあさんに気づいたことを書いてもらうことにした。

昭和五十九年一月十五日に

梅園小 島田成子

何か子どもたちに永遠に記念になるものを残してやりたい……。

こう考えて始めたのが押絵色紙である。夏休みからはりきって手がけたものの、一つ仕上げするのに六・七時間もかかる。忙しさにまぎれ、何度途中で止めようと

私の教師としての歩みは、作文を通して、一人一人の子供の心の中に飛び込み、助言や相談のつてやれる先生になることだった。面と向かって言えないことも、ノート（作文）を通して綿々と訴えてくる子もあつた。

深夜、時計の針を刻む音を聞きながら、作文を読む。そして、赤ペンを握り、ぎつしり返事を書いてやる。やっっているうちに、楽しみというものが湧いてくるから不思議だ。あくる日、「ホイ、ノート

五月二十一日

「なぞかけ鬼」を読みました。はじめは、一生けんめい読んでいたのですが、終わりごろは、眠くなって、声が小さくなって来たので、私とふたりで読んでいたら、だんだん目がさめて、みんな読んでしまいました。（担任より） やっぱりおかあさんに助けていただいたことが……

…（以下略）

思ったことか。

でもようやく仕事もはかどり、額ぶちに入れ卒業式に渡してやることができようである。

押絵色紙と手紙を交換し、八年後の昭和五十九年一月十五日の成人の日を持ち寄ることを約している。

その時の子どもたちの姿を想像しひとりひそかに楽しみにしているこのころである。

返してやるぞ。」と、さりげなく手渡す。さつそくノートを広げ、首をつつこんで読みひたる顔、顔、顔。思わず笑顔がこぼれる。瞬間、子供の目と自分の目がカチーンとぶつかり合う。

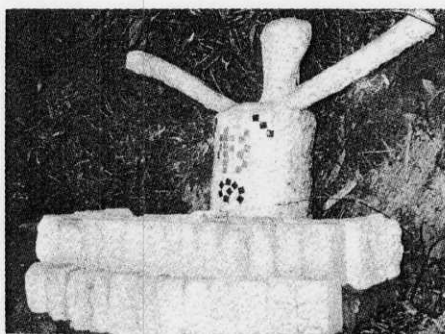
最近、書く喜びをエンジョイさせるため、イラストを勧めている。絵日記みたいだ、などと照れていた子も、次第に興味を持ち始めてくる。丹念に形を整えた天然色の作文が生まれる

かきたてられた。

卒業記念の塔の下に、タイムカプセルを埋め、その中に、カセットテープ・作文・図面・写真等を入れ、十年後のクラス会の時に開いてみよう、とんとん拍子に話はまとまった。

像のデッサンや、タイムカプセルの設置方法など、目を輝かせて、話し合っている子どもたち。授業後、遅くまで作業を使つて、父兄が運んでくださった木っ端や廃品の冷蔵庫。

山すそに建った小さな塔ではあるが、子どもたちに無限の夢をひろげさせてくれるかのようであった。また子どもたちが、一年間文通を続けた吉良町の白浜小の子どもたちが、カプセル完成の式に出席してくれたことも、忘れることができない。



タイム カプセル

昭和50年度教育研究論文入選者

教育委員会賞

努力賞

●個人研究の部

校名氏名	教科領域	主 題
大樹寺小 池田 祐二	国 語	一次感想を軸とした物語教材の展開 ——その生かし方を求めて——
六ッ美中部小 高木 明子	国 語	ひとりひとりの読む力を伸ばすために
三島小 中根 恒夫	社 会	子どもの見方・考え方の変容をめざす 社会科学習指導の実践
岡崎小 太田 要	理 科	6年「ものの燃え方」の単元におけるより 確かな指導と評価を求めて(その2)
三島小 鈴木 正純	理 科	2000このたねをもつ花と理科指導
三島小 長谷川四郎	音 楽	「基礎」をふまえた合唱指導
愛宕小 杉山久男	道 徳	ぬき書き文利用による道徳授業
男川小 畔柳 吉朗	特 活 学級経営	やる気を育てる学級づくり ——学級通信を通して——
三島小 金子 一元	特 活 学級経営	心のふれあいを大切にした学級づくり の実践 一より高い集団の育成をめざして一
緑丘小 山田 惇子	生活指導	問題児が問題児でなくなる時 実践記録
緑丘小 名倉 昭人	教育全般	道具器具の機能を考えて進めた授業
福岡中 杉浦 博司	国 語	文学における個々の 読みとりを深める指導
六ッ美中 杉浦 健支	社 会	ノート指導による 「主体的な社会科学習」の実践
矢作中 大久保慎一	保健体育	ひとりひとりを伸ばす学習指導 機器利用による学習指導の改善 腕立てとびこしを例にとりて
岩津中 梶尾 長夫	特 活	生活ノートをいかした学級づくり 一ひとりの生活ノートをみんなのものに一

●共同研究の部

細川小 加藤 啓子 土岐 順子 荻野 順子	国 語	意欲的に学習に取り組みさせる国語学習 の創造 一物語文の指導を通して一
六ッ美北部小 現職教育 委員会	音 楽	生き生きした音楽の学習を求めて 一ガイド活用3年のすがた一
根石小 現職教育 委員会	特 活 学級経営	学級指導の評価とその活用
矢作西小 伊奈 弥生 稲垣 敏子 桂川 明子	"	楽しい給食の手だて 一児童委員会・学級指導をとおして一
福岡小 現職教育部	教育全般	話し合う能力を育てる指導の実践
竜海中 豊島 典明 村松 裕 菅原 秀美 井上 典子	数 学	1年での「数の集合と計算」 の実践研究
甲山中 理科研究部	理 科	ひとりひとりの追究する力を 伸ばす理科学習
甲山中 蜂須賀千代子 伊与田芳子	技術家庭	創造的・自主的な 食物学習の場を求めて

●個人研究の部

杉坂美典(六中小) 齊藤庄・細井義雄(本宿小) 石川守彦(矢北小) 杉田よしゑ(連尺小) 二瓶千秋(細川小) 浅井建一(矢北小) 磯貝良雄(矢南小) 神尾心一(羽根小) 松井日出夫(奥殿小) 市川ち江(羽根小) 鈴木松三(美合小) 堀泰明(広幡小) 上田光(根石小) 古川勇子・近藤公一(羽根小) 織田理知子・安杖多美(三島小) 故・鈴木真左子(生平小) 宇野五郎(常磐小) 山本久美子(矢西小) 山下八重・八田昌子(六中小) 杉山功(羽根小) 大日川和子(福岡小) 岡田金二(美合小) 浅井昇(羽根小) 岡本知子(連尺小) 岩月勲(山中小) 深津浩(城北中) 深津吉堯(岩津中) 黒柳扶志江(葵中) 牧内映雄(福岡中) 小田紀夫(美川中) 河村喜美(東海中) 酒井啓益(岩津中)

●共同研究の部

- ・ 広幡小 授業研究部
- ・ 山中小 高学年部会
- ・ 六名小 社会科部会
- ・ 大樹寺小 2年部会
- ・ 羽根小 2年生グループ
- ・ 岩津小 現職教育部
- ・ 河合中 現職教育部
- ・ 甲山中 保健体育部
- ・ 城北中(清水・杉本・遠山)
- ・ 香山中 現職教育部
- ・ 岡崎社会科研究グループ
- ・ 岡崎区工美術研究グループ

一年の あゆみ



市内全校の児童生徒一〇〇〇余名が一堂に会しての大合唱。先生も美声をふるって会場もわく。(十一月)

4・1	新設緑丘小学校スタート 若さ溢れる新任教員八十九名(男三十一女五十八名配当される。)
4・15	現職教育委員会総会(甲山中) 記念講演は久徳重盛氏の「現代における人間形成の問題点」 賑やかな笑い声が河原いっばいの第二回岡崎子どもまつり
5・3	母校の名譽をかけて、第十九回岡崎市中学校総合体育大会開催
5・18	本市から三年連続学校環境緑化日本一に(本年は竜海中学校)
5・25	岡崎っ子の国際親善使節、美合・緑丘小のカナダ訪問(六月十二日まで)
5・27	親睦と健康の集いの市教職員体育大会(葵中) 中根千枝先生の講演会。演題は「中国と日本」
6・21	六月から七千三百名が参加、南公園の交通指導が始まる。
6・25	夜を徹して語り合う新任教員宿泊研修会(働く者の山の家で九日まで)
7・8	小学校球技大会始まる(二十六日まで)
7・21	中学校市長杯総合体育大会始まる
7・21	明日の岡崎を考える市民大学開講式
7・27	九教科、三部門にわたる夏季実技講習会始まる
7・30	数々の新記録、小学校水泳大会(羽根小)
8・7	「読めない子が読めるように、読まない子が読むように」と読書指導研究発表会(六ツ美中部小)
9・12	第二十五次教育研究岡崎集会(矢作中)
9・23	好評のうちに市民大学講座閉講
9・28	未来の科学者の夢を育む理科作品展(七日まで)
10・2	レオ)

二回目を迎えた

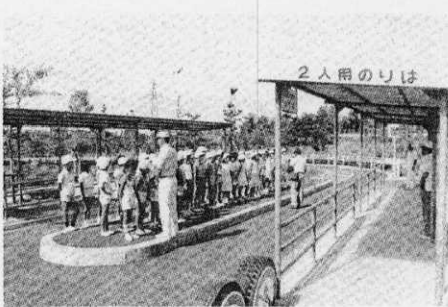
放送教育研究大会

NHKテレビ・ラジオ・愛知県教育放送と、多彩な放送メディアを活用した授業が展開

愛知県教育放送のモニター校(常磐小)の研究発表や、社会教育でおかあさんの代表が発表するなど変化に富んだ全体会を持つ。(一月)

ゴーカートも運転して

整った施設で、しかも楽しみながら学べる交通安全の学習。全市三年、一年を対象にして南公園交通広場で実施。(六月)



冬季研修会



岡崎の教育の心意気ここに結集。額田郡千万町の愛知県野外教育センターに集うは二百五十余名。折からの寒気を吹き飛ばすほどの熱気に満ちた研修会となる。(十二月)

大門小学校の建設



岡崎市少年自然の家建設始まる

緑と太陽と清流の中で遊びと生活し、たくましい少年を育てる場として、須渕町の丘陵に二百四人収容の三階建てが完成し、利用できるのは五十二年度より。



3・3	2・28	1・30	1・7	12・25	12・9	12・2	11・26	11・23	11・18	11・15	11・3	11・2	10・28	10・17	10・9	
大門小完成式 (十一日まで美術館)	平面作品二千五百点、第四回小中学校造形展 (十一日まで美術館)	教育研究大会(愛宕小)	小中学校かきぞめ展(二十日まで市美術館) 県外からも多数の参加者を迎え、第十二回放送	教育センター、二十七日まで)	若い女教師もハッスル第二回冬期研修会(野外	「記録の仕方・活かし方」の研究発表会六名小 学校で	「温かい人間関係に立つ学習集団の育成」を主 題に男川小研究発表会	「わかる学習の深化・拡充」をめざした竜海中 の研究発表会	「こころ」をテーマの大合唱第三回岡崎のハー モニ	「自ら学ぶ力を育てる」広幡小研究発表会	第三回教育文化賞授賞式	「私のおまもり」のオンパレード、第十二回岡 崎っ子展(東公園)	小学校陸上競技大会(岡崎公園)	表会、美川中学校	「生活経験を豊かにするクラブ活動」の研究発 表会、香山中研究発表会	「一人一人を生かす基本的条件の探究」と題す る矢作北小研究発表会

緑化日本一 — 竜海中 —



城北中、井田小に続く三年連続の快挙は全国でも初めて。生徒、職員、父母の創意と労作が実ったもの。

岡崎市民大学の開設

魅力的な講師陣により、充実した講座内容で展開。(七月)
「肉食世界の市民生活」 鯖田豊之
「イスラム世界の文化」 吉田光邦
「動物の言葉」 桑原万寿太郎
「日本語とはどんな言葉か」 金田一春彦
「歴史と人間」 奈良本辰也
「化学と文明」 赤松秀雄



第四回小中学校造形展
描画、版画、デザインなど二千五百余点の作品を集めて市美術館で「生活画」をテーマにして、近來にないにぎわいであった。

発表 月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料(研究分野・講師・助言者等)
9 月 12 日	六ツ美中部小学校	読書指導	読めない子が読めるように、読まない子が読むように。	変容する子供の姿をとらえ具体的な個々の対策を立てる(読書指導個票)一事例研究/感動をもち上げ読書意欲を高める授業研究/自由な読書の広場20分間読書/読書環境の拡充と親子のつながりを求めた親子読書。	●実践記録「読めない子が読めるように読まない子が読むように」/講師・北村けんじ・宇野正一・山本知都子・糟谷正孝先生/司会・岸田達夫先生
10 月 9 日	矢作北小学校	教育全般	一人一人を生かす基本的条件の探究—めあてに向かって日々努める子の育成—	希望日記や観察記録(カルテ)や調査やブリテストを手がかりに、子どもを多面的に理解し、垂範的刺戟・先導的刺戟を与えることに努め、細やかな随伴的刺戟を効果的に与えられる教師となること。これこそ最重要の条件である。	●研究物「発表要項」 「子どものめあてを育てる」 ●講師 愛教大教授沢田秀一先生 極地研究所長永田武先生 ●助言者 石川勤先生・岩月栄治先生 塚本時丸先生・県市指導主事
10 月 17 日	香山中学校	教育全般	みんなで見つめてひとりひとりを伸ばす指導—授業の研究と学習態度の育成—	小規模校の利点を生かし、全職員でひとりひとりを伸ばす指導を推進した。生徒理解を基底にし、チーム方式を取り入れた授業研究と学年をこえた、たてわり活動の指導等を考究した。	●分野…小規模校の特徴を生かし教育全般をみんなで見つめた。 ●講師…名和秀雄氏の講演「自然とのふれあい」。 ●助言者…伊藤四三九教授
10 月 28 日	美川中学校	特別活動	生活経験を豊かにするクラブ活動 一人間関係の深まりを求めて—	生活経験を豊かにするクラブ活動の効果的な運営を図るために生徒が自主的にクラブ活動を展開する組織、運営、活動計画、評価の実践的研究。特にクラブ活動を通して人間関係の深まりを求めて研究を進めた。	●研究物「クラブの声」「クラブ活動年間計画」「クラブ資料集」 ●指導助言 筑波大 相川高雄先生 ●記念講演「今の子供たちをめぐる諸問題について」望月一宏先生
11 月 18 日	広幡小学校	国語	自ら学ぶ力を育てる 国語学習の指導	自ら学びとる子どもの育て方をめざした— 「読みとる意欲を育てる」低学年の学習指導 「読みとり方を身につけさせる」中学年指導 「自ら読みとり方を創らせる」高学年指導 「確かな力を育てる」T.T学習等の実践研究	●日本学び方研究会副会長 ・石川勤先生・岩月栄治先生 ・鈴木重男先生 ●講師 辰野千寿先生
11 月 26 日	竜海中学校	教育課程(全般)	わかる学習の 深化・拡充 —教育計画と その実践—	教育活動の中核となるわかる学習指導の実践 ・調和と統一をめざした教育課程の編成 ・生きて働く力を身につけ具現化をめざした授業 ・自主性を育て具現化をねらった特別活動 ・わかる学習をささえるMT活動の運営	●講師 名大教授 高橋義孝先生 ●助言者 愛教大名誉教授 伊藤四三九先生 西三教育事務所 指導課長 浅井凌一先生
12 月 6 日	六名小学校	社会科を中心として	記録のしかた、活かし しかた	さまざまな教育的営為の中で、記録のもつ機能を重視し、今日的課題である、教育の重点化、個別化、システム化、科学化、等を追求してみた。	●研究物「記録のしかた」 ・活かししかた」 3冊分 ●講師「学校勉強と世間勉強」 教育評論家 佐藤忠男先生
12 月 9 日	男川小学校	学習指導	あたたかい人間関係 にたつ学習集団の育成	・学習の主体を子供におき「わかる」授業の確立をめざす ・学級の人間関係を大切に「仲間づくり」によって「やる気」を育てる ・「生活の時間」を特設し話し合いを深める	●研究物「ともに生きる 教師と子供」 ●講師 奈良女子大学付属小 塩見 栄先生



市内中学校陸上競技種目

ことしの最高記録決まる

中小体連岡崎支所ではこのほど今年度の中学校陸上競技各種目の十傑表を作成発表したが、それぞれ市内一位の記録は次のとおり。

【男子】▽100m 石田博巳(葵中) 11秒5▽200m 木村孝次(美川) 24秒2▽400m 米村富夫(葵中) 2分13秒5▽800m 鈴木英典(矢作) 5分59秒6▽1000m 鈴木喜尊(葵中) 14秒4▽100m R 葵中(佐藤牧、石田、鈴木) 1分39秒1▽400m R 岩津(日比、柏木、岡田、内田)▽走幅跳 佐藤見一(葵中) 6.03m▽走高跳 鈴木政行(岩津) 1.65m▽砲丸投 宮嶋幸男(香山) 12.75m▽三種・野々山佳寿(矢作)二三三四点【女子】▽100m

【寄贈刊行物・資料等】
◇追慕渡辺愛吉先生
「追慕渡辺愛吉先生」刊行会
三河教育界の巨星の在りし日を偲ぶ近親、有縁の人々百八人の追悼文を集録。B6判二百九十六ページ箱入。
◇二十八年の歩み

創草以来の歴史と業績を年度毎に記録した異色の記念誌。A5判、七十八ページ
◇研究紀要(第四号)
岡崎地方史研究会

◇遅しい甲山教育
甲山中学校編

・栢植美佐子(甲山) 13秒1▽200m 飯田絹子(城北) 27秒4▽400m H 飯田絹子(城北) 12秒7▽400m R 甲山(栢植杉山、榊原、本田) 52秒6▽400m R 甲山(蜂須賀、斎藤山本、佐藤) 55秒3▽走幅跳 本田泰子(甲山) 5.10m▽走高跳 榊原祥子(甲山) 1.38m▽砲丸投 山本初美(東海) 10.73m▽三種・酒井俊子(矢作) 二三五八点

現職教育委国語部は、このほど、昨年に引き続き岡崎・岡崎南・岡崎東の三ロータリークラブの協力をえて年刊文集「おかげ」第13集を刊行した。「自分やまわりの生活をみつめて」をテーマとした小学校七

東海中学校父母教師会
追慕渡辺愛吉先生
三河教育界の巨星の在りし日を偲ぶ近親、有縁の人々百八人の追悼文を集録。B6判二百九十六ページ箱入。

創草以来の歴史と業績を年度毎に記録した異色の記念誌。A5判、七十八ページ
◇研究紀要(第四号)
岡崎地方史研究会

◇遅しい甲山教育
甲山中学校編

百二十点、中学校二百十の応募作品の中から九十六点の作文と詩を選んでA B判一八六ページにまとめたもの。
なお発刊に先だち、三ロータリークラブでは、五十点の入賞作品を決め、二月十四日岡信本店ホールで表彰式を行なった。
優良までの入賞者は次のとおり。

【小学校】▽最優秀 小塚令子(愛宕4)▽優秀 林直樹(井田4) 宇佐美智里(緑丘5)、

▽優良 佐藤友子(男川1) 杉山典子(三島2)、近藤千ひろ(羽根2) 左右田仁美(梅園4) 松野圭子(細川6) 柴田秋子(連尺6)

【中学校】▽最優秀 鈴木貴子(美川2)▽優秀 服部悦子(福岡2) 井畑和子(甲山3)▽優良 加藤敦代(城北1) 富田庸子(東海2) 小林一夫(六ツ美3)

■県自作視聴覚教材コンクール
主催・県教育委員会、県視聴覚教育連絡協議会

▽優秀賞 ビデオ「ジョイフルイングリッシュ」現職教育英語部、同「消防署のはたらき」岡崎AVL、同「七四八凸」矢作東小学校▽佳作 二コンセプト大久保慎一(矢作中)、ビデオ矢作南小学校

・野村 環(六名小)
・鳴田 穂(井田小)
・柴田 穂三(梅園小)
・大山 紀司(緑丘小)
・千田 水城(東海中)
・北川 英雄(矢作西小)
・松井きよ子(矢作中)
・竹内 昭次(福岡小)
・梶尾 長夫(岩津中)
・金子 一元(三島小)

■51年度月報編集委員
今月の第三十四号をもって創刊後九三年を数えた。どの一号とて苦心の作でないものはない。本年度編集を担当された先生方は次のとおり。(敬称略)

・糟谷 正孝(美川中長)
・権田 梅芳(美合小長)
・角谷 米三(泰梨小頭)

・山田 利一(六ツ美中部小)
・波谷 環(六名小)
・野村 穂(井田小)
・鳴田 穂(井田小)
・柴田 穂三(梅園小)
・大山 紀司(緑丘小)
・千田 水城(東海中)
・北川 英雄(矢作西小)
・松井きよ子(矢作中)
・竹内 昭次(福岡小)
・梶尾 長夫(岩津中)
・金子 一元(三島小)

▽優良 佐藤友子(男川1) 杉山典子(三島2)、近藤千ひろ(羽根2) 左右田仁美(梅園4) 松野圭子(細川6) 柴田秋子(連尺6)

「最近、塾へ行っていない子を未塾児って言うんだそうですよ。」
こんな冒頭で始まった朝のリポート番組を見ていたら、ある進学塾のようすが映され始めた。
早朝五時半に始まるこの塾は、粗末なプレハブ建てで、ストーブはおろか火鉢もない。それはよいとして、スパルタ教育と銘うって、勉強している生徒の頭や肩に遠慮なく竹刀が飛んでくる。テストで及第点をとらないと、とれない本人は勿論、同じグループの者全員、一蓮托生下着一まいになって頭から氷のはいった冷水をかぶせられる。
「体罰ではありません。あくまで精神教育です。」
と言う塾教師の顔を見ていたら、ふと、あの戦争中の暗い灰色の記憶が頭の中をよぎった。下手なサスペンスドラマを見るより、背すじの寒くなるような感じをうけたのは、私だけだったろうか。

かがみ

ある番組

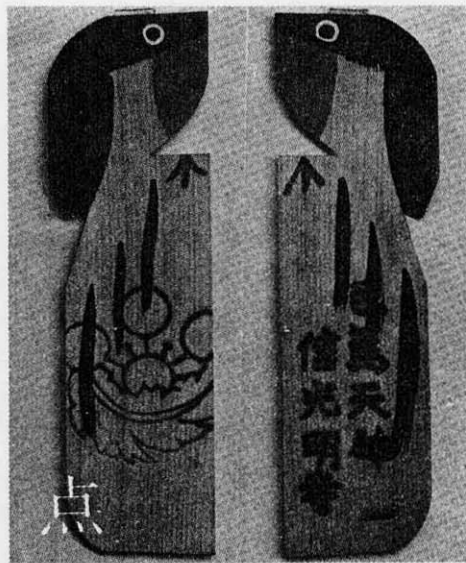
松岡 道子

「最近、塾へ行っていない子を未塾児って言うんだそうですよ。」
こんな冒頭で始まった朝のリポート番組を見ていたら、ある進学塾のようすが映され始めた。
早朝五時半に始まるこの塾は、粗末なプレハブ建てで、ストーブはおろか火鉢もない。それはよいとして、スパルタ教育と銘うって、勉強している生徒の頭や肩に遠慮なく竹刀が飛んでくる。テストで及第点をとらないと、とれない本人は勿論、同じグループの者全員、一蓮托生下着一まいになって頭から氷のはいった冷水をかぶせられる。
「体罰ではありません。あくまで精神教育です。」
と言う塾教師の顔を見ていたら、ふと、あの戦争中の暗い灰色の記憶が頭の中をよぎった。下手なサスペンスドラマを見るより、背すじの寒くなるような感じをうけたのは、私だけだったろうか。

うそかえの神事

松平三代信光ゆかりの地信光明寺(岩津町)には、宝暦九年(一七五九年)の二十三代住職一誉上人以来、芭蕉天神が安置されている。ここに依わるうそかえの神事は昔太宰府天満宮に初まったものといわれ、木製のうそという鳥を求めると、悪事も嘘になり変わり、開運幸福を得られるという。

平板の「板うそ」は全国的にも珍しいもので、遠くは九州方面からも受ける人が多いという。



平板の「板うそ」

日本経済

- 分水嶺 高田博厚 五〇・一二 ¥一〇〇〇
- 岩波書店
- 食の文化史 大塚 滋 五〇・一二 ¥一五〇〇
- 中公新書
- 現代教育の争点 新堀通也(編) 五〇・一二 ¥三四〇
- 日本経済新聞社
- 松下村塾 池田 諭 五一・一 ¥一五〇〇
- 広済堂出版
- 作文のふるさと 鳥居靖之 五〇・七 ¥七〇〇
- 三祐堂
- 未来への学習 エドガー・ウォール他 五〇・一二 ¥一〇〇〇
- 第一法規
- 禅入門 池田書房 五〇・八 ¥三〇〇〇
- 夕日に立つ 日本経済新聞社 五〇・四 ¥六〇〇
- 日本経済新聞社
- 空白の天気図 柳田邦男 五一・一 ¥九八〇
- 新潮社
- 松平町史 松平町史編さん委員会 五一・一 ¥八八〇
- 豊田市教委
- 松平町史 松平町史編さん委員会 五一・一 ¥四〇〇〇

寸言

- ▼薄い藍を溶かしたような空に
ふわりと、白く柔かくとど
まっている春の雲。眩しいほ
どの陽の光
- 芽ぶかんとするひしめきの
枝の空
〈素逝〉
- ▼ひとりひとりの子供の心に点
火する「ふれあい」の記録。
- ▼学期末、改めて問う。
「教育とは何か。」と。

●カッター

片山俊朗(広幡小)

3月の行事

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	月	校長会(婦人会館)		17	水		
2	火			18	木	定例教育委員会(市役所)	
3	水	研究紀要編集委員会(市役所)		19	金	小学校卒業式・文化財保護審議会(市役所)	
4	木			20	土	(春分の日)	
5	金			21	日		
6	土			22	月	高校入試(全日制)合格者発表	
7	日			23	火	幼稚園卒園式	
8	月			24	水	修了式	
9	火			25	木		
10	水			26	金		
11	木			27	土		
12	金			28	日		
13	土	中学校卒業式		29	月	公立高校(定時制)入試	
14	日	市民スケート大会(スポーツガーデン)		30	火	市婦連協総会(婦人会館)	
15	月			31	水	公立高校(定時制)合格者発表	
16	火	公立高校(全日制)入試 公立高校(定時制)入試	願書提出(23日まで)				